

夢のかけ橋

Topics 1 令和7年度教職員等表彰について

2月

教職員等表彰は、教育活動が優れ、成果の著しい学校、保育所等及び共同調理場並びに教育関係者であって、特に功績が顕著なものや、全体の奉仕者として他の模範となる教職員を表彰するものです。

表彰式（令和7年11月28日）には、高知県議会 三石 文隆 議長、市町村教育委員会連合会 竹内 信人会長、高知県小中学校長会 伊藤 和幸 副会長、高知県高等学校校長協会 竹崎 実 会長にご臨席いただきました。今城 純子 教育長の式辞の後、「学校表彰」「土佐の教育功績表彰」「土佐の教育奨励表彰」の表彰を行い、最後に、高知県立伊野商業高等学校 山岡 晶 校長の謝辞で締めくくられました。受賞者の皆様のこれからのご活躍を大いに期待いたします。

■ 教育研究実践表彰（優れた教育研究を実践した学校を表彰）

受賞校	内容
田野町立田野小学校	教育理念に基づいた組織的な授業改善や組織的な研究体制の構築による、主体的に学び続ける力の向上への取組
香南市立野市中学校	教科主任会を中心とした授業改善に向けた研究やデジタル技術を活用した授業改革を通じた学力向上への取組
高知市立介良小学校	地域の協力を得た農業体験等の実践的な学習を通して、共に学び合う力の育成への取組
高知市立南海中学校	授業スタイルの全校統一化や校内サポートルームの設置を通じて、生徒の主体性の育成への取組
大川村立大川小中学校	地域との連携を活かした体験学習や山村留学制度を通じて、自分の思いを表現する力の育成への取組
いの町立伊野小学校	単元計画の検討に基づいた教材研究やタブレット端末の活用を通じて、主体的な課題解決への意欲向上への取組
越知町立越知中学校	課題解決のための実態把握や原因分析に基づいた授業実践、職業講話による社会参画に向けた能力向上への取組
宿毛市立小筑紫小学校	中学校教員による教科の乗り入れ授業や地域の人材を活用した体験活動を通じて、学力向上や職業観育成への取組
黒潮町立大方中学校	学習指導要領、年間指導計画、授業改善プランを関連付けた授業改善の具体化を軸とした学力向上への取組
高知県立安芸高等学校	「学び」「部活動」「地域」を拠点とした教育活動や地元企業と連携した実習を通じて、地域活性化への取組

■ 学校安全優良表彰（学校安全について優れた成果を上げている学校を表彰）

受賞校	内容
安芸市立安芸第一小学校	安全教育プログラムに基づく防災学習や、市内各校への危機管理マニュアルの見直し等の推進への取組

■ 土佐の教育功績表彰（主に管理職等の多年にわたる功績と教育実践を表彰）

氏名	所属	氏名	所属		
山崎 美砂	校長	室戸市立室戸小学校	太宰 三和	校長	四万十市立竹島小学校
松浦 澄夫	校長	安芸市立安芸中学校	森 和也	校長	宿毛市立小筑紫中学校
近藤 理恵	校長	芸西村立芸西小学校	今津 一志	校長	黒潮町立上川口小学校
森田 真弘	校長	香南市立野市中学校	吉福 巧	校長	大月町立大月中学校
中野 博文	校長	高知市立潮江小学校	橋本 万里子	校長	高知県立中芸高等学校
廣瀬 潤	校長	高知市立介良潮見台小学校	刈谷 直文	校長	高知県立領北高等学校
田中 美穂	校長	高知市立横内小学校	中野 達也	校長	高知県立高知東工業高等学校
中井 昭秀	校長	高知市立一宮中学校	三谷 哲生	校長	高知県立岡豊高等学校
藤川 尚司	校長	南国市立十市小学校	北村 晋助	校長	高知県立高知工業高等学校
小笠原 幸子	校長	本山町立嶺北中学校	山岡 晶	校長	高知県立伊野商業高等学校
谷口 博美	校長	須崎市立朝ヶ丘中学校	柳本 朋幸	校長	高知県立佐川高等学校
山中 常嘉	校長	佐川町立黒岩小学校	松嶋 美智	事務長	高知県立山田特別支援学校
須内 康雄	校長	越知町立越知中学校	北中 加乃	校長	高知県立高知江の口特別支援学校
山本 千代	校長	四万十町立影野小学校			

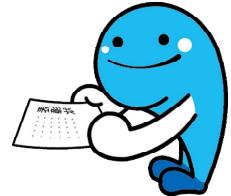
■ 土佐の教育奨励表彰（教職員の継続的な教育実践の取組を表彰）

氏名	所属	氏名	所属		
山本 衣里	教諭	香南市立野市小学校	田邊 昌子	教諭	四万十町立蓬川小学校
濱 裕介	教諭	香南市立香我美中学校	小島 有貴	総括主任	四万十市立中村南小学校
森澤 誠	教諭	香美市立山田小学校	北村 綾	主幹教諭	宿毛市立片島中学校
北村 加菜	栄養教諭	香美市立山田小学校	山下 香織	教諭	黒潮町立入野小学校
小松 弥生	教諭	香美市立大宮小学校	福岡 征則	教諭	黒潮町立大方中学校
山下 由紀子	教諭	香美市立鏡野中学校	濱崎 麻衣	教諭	高知県立山田高等学校
山路 賴子	教諭	高知市立旭小学校	池上 早苗	教諭	高知県立高知東高等学校
井上 千春	教諭	高知市立春野東小学校	刈谷 祐子	養護教諭	高知県立高知工業高等学校
奥村 美樹	教諭	高知市立(よしまや)橋小学校	五百藏 幸雄	教諭	高知県立高知工業高等学校
水野 幸枝	教諭	高知市立愛宕中学校	濱川 美香	教諭	高知県立高知丸の内高等学校
森本 哲平	教諭	高知市立春野中学校	和田 真由美	教諭	高知県立高知小津高等学校
橋本 可奈	教諭	南国市立岡豊小学校	森澤 清規	教諭	高知県立高知国際高等学校
吉村 敬子	教諭	南国市立国府小学校	濱崎 亜紀	教諭	高知県立四万十高等学校
大原 佐知	栄養教諭	本山町立嶺北中学校	山本 泰道	教諭	高知県立中村高等学校
安部 真美	養護教諭	いの町立伊野南小学校	山崎 大	教諭	高知県立清水高等学校
奥崎 知里	教諭	須崎市立朝ヶ丘中学校	三好 秀一	教諭	高知県立盲学校
岡崎 広典	教諭	梼原町立梼原小学校			

■土佐の教育実践表彰 (優れた教育実践を表彰)

小中学校 義務教育学校	丸子 清志	尾木 克嘉	山崎 晶子	仙頭 希望	山岡 朋	大利 敏子	藤本 佐知恵
	西岡 利紗	中森 悠太	岡崎 寛子	原 幸代	岩田 夏穂	榎原 順	渡邊 真菜
	福島 勝成	松折 果恵	荻田 智絵	武田 朋美	関川 純子	堀地 麻美	浦田 奈々
	吉本 楓	渡邊 慶太	岡林 由香	稻田 圭哉	太田 泉美	兵等 奈保子	浅井 柚衣
	中澤 忠司	東 祐矢	川口 奈緒美	楠目 安由	澳本 由佳	佐々木 洋子	酒井 薫
	森本 美希	刈谷 佳菜	濱田 悠	浜田 裕麻	尾崎 麻美	森田 聰一	田野 ももこ
	橋場 公亮	岡本 茜	岩田 未来	広瀬 ちひろ	島巻 力	速渡 恵理	岸本 由貴子
	上杉 秀樹	吉岡 千津	中野 智仁	二宮 健輔	大久保 奈美	久本 さくら	岡田 梢
	石原 弘一	松尾 涼子	鈴木 隆哉	山本 章夫	前田 悠佑	矢野 彩香	小川 聖子
	篠崎 庄	二宮 ひとみ	伊藤 良太	渡辺 瞳	岩城 あや	中筋 佳名子	
	小野川 麻祐子	森 誠司	前中 佳奈	高橋 速水	畠中 晶代	水町 理抄	吉井 志織
	岡林 健二郎	仙石 理世	甲藤 有美	山沖 智子	長峰 史弥	中野 芽生	
	川渕 祐介	山中 惟生	長野 千恵	市木 めい	伊与田 美紀	林 幸	
	島崎 奈々	小野川 直人	松木 美穂	宮村 絵理	高橋 裕実	黒木 彰子	
	上田 真理子	山中 修二	中村 優介	大城 里香	濱田 梨佐	中島 久美	

◎その他 167 名の方が勤続表彰を受けられました。



Topics
2

令和7年度文部科学大臣優秀教職員表彰について

文部科学大臣優秀教職員表彰は、学校教育における教育実践等に顕著な成果を上げた教職員及び教職員組織について、その功績を表彰するとともに広く周知し、併せて教職員の意欲及び資質能力の向上に資するものです。

令和7年度は以下の8名が受賞され、令和8年1月20日に東京大学・安田講堂にて表彰式が開催されました。受賞者の皆様のこれからのご活躍を大いに期待いたします。

氏名	所属	氏名	所属		
松下 咲	教諭	南国市立後免野田小学校	前野 佐希子	教諭	高知県立高知国際高等学校
平野 幸	主幹教諭	四万十市立中村小学校	谷渕 悠	教諭	高知県立幡多農業高等学校
小畠 奈美	主幹教諭	香美市立鏡野中学校	戎井 淳	教諭	高知県立高知丸の内高等学校
松下 恵美	総括主任	四万十町立窪川中学校	山崎 隆史	教諭	高知県立嶺北高等学校



詳しくは教職員・福利課ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310000/310601/>



教職員・福利課人事企画担当

TEL : 088-821-4903

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

～子どもたちの「健やかな体」の育成と「豊かなスポーツライフ」の実現に向けて～

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果が、昨年12月22日（月）に公表されました。

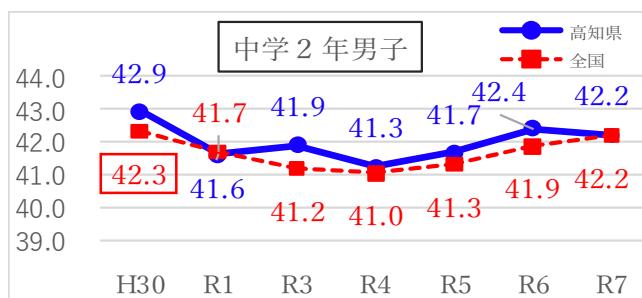
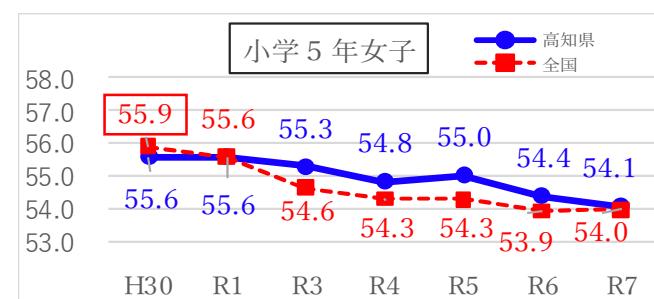
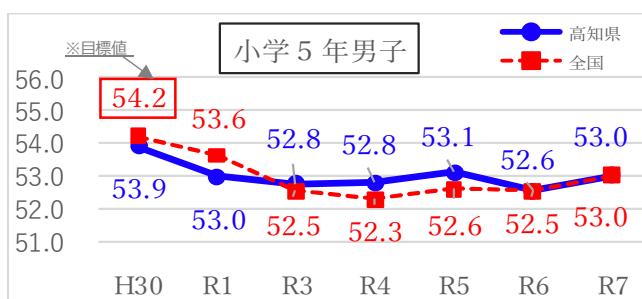
令和7年3月に策定された第3期教育大綱・第4期教育振興基本計画において、基本目標2「健やかな体の育成と、基本的な生活習慣の定着」の測定指標を以下のように設定していますので、関連する結果とあわせて紹介します。

【測定指標1】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小学校5年、中学校2年）において、小・中学校的体力合計点は、継続的に全国平均を上回る。平成30年度の全国平均値まで改善させる。

※平成30年度が全国・県とともに体力合計点のピークであったため、コロナ禍で落ち込んだ体力をそこまで戻すことを目指すという趣旨で「平成30年度の全国平均値までの改善」を設定

◇体力合計点（8種目の実技の総合点）の推移

※全国の値はスポーツ庁の示す公立（国立・私立を除く）学校の平均値（以下同様）



- 令和7年度の体力合計点は、全国と比較すると、小学校女子は全国平均を上回っており、小学校男子及び中学校男子は全国平均と同じ、中学校女子は全国平均を下回る結果となりました。また、令和6年度の本県の結果と比較すると、小学校男子は上回っているが、小学校女子及び中学校男女は下回りました。平成30年度の目標値と比較すると、小中学校男女ともに目標値に届いていない状況です。

【測定指標2】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小学校5年、中学校2年）において、総合評価でD E群*の児童生徒の割合を、平成30年度の全国平均値まで改善させる。

*DE群は、体力テストの総合評価において、よい方からABCDEの5段階に分類された4、5段階に属する群

◇総合評価（DE群の割合）

小5男子 H30 : 30.1% (28.8%)	⇒R6 : 35.0% (35.9%)	⇒R7 : 33.7% (34.2%)
小5女子 H30 : 23.8% (22.5%)	⇒R6 : 29.6% (30.8%)	⇒R7 : 29.9% (30.6%)
中2男子 H30 : 27.6% (27.8%)	⇒R6 : 28.8% (30.9%)	⇒R7 : 29.3% (30.0%)
中2女子 H30 : 11.7% (10.8%)	⇒R6 : 17.9% (19.2%)	⇒R7 : 21.1% (18.8%)

※（ ）内は全国平均 下線は目標値

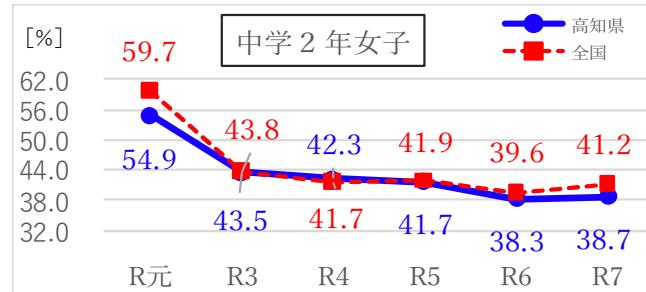
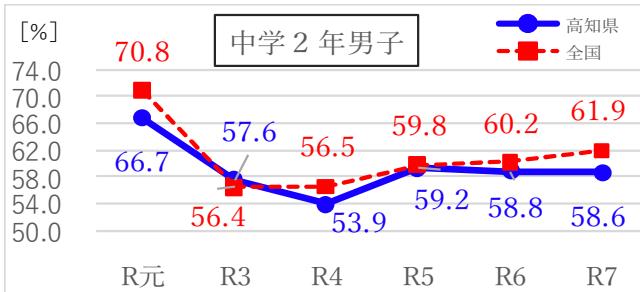


- 令和7年度のD E群の児童生徒の割合は、全国と比較すると、小学校男女及び中学校男子は割合が低く、中学校女子は高い結果となりました。また、令和6年度の本県の結果と比較すると、小学校男子は減少し、小学校女子、中学校男女は増加しました。

平成30年度の目標値と比較すると、小中学校男女ともに目標値には届いていない状況です。

【測定指標3】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（中学校2年）において「中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」と思う生徒の割合が継続的に全国平均を上回る。

◇中学校卒業後の運動意欲



- 「中学校を卒業した後も、自主的に運動やスポーツをしたい」と思う生徒の割合は、男女ともに全国平均を下回る結果となりました。
「運動が好き」と回答する児童生徒も減少傾向にあり、学校の体育授業において、いかに「運動の楽しさ」を実感させ、生涯にわたる運動習慣につなげていくかが大きな課題となっています。

◇今後の取組～授業改善を柱とした「健やかな体」の育成～

調査結果から、本県では授業における「めあて（目標）の提示」「振り返りの活動」「苦手な子に動きのコツやポイントを重点的に教えること」などが、全国と比較すると不足していることが分かりました。これを踏まえ、県教育委員会では、以下の4点を重点ポイントとして、各校における授業改善の取組等を支援していきます。

(1) 体育授業における学習サイクルの確立

「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」を各学校で活用しながら、運動の楽しさを実感させるとともに、授業の始まりに「めあて（目標）」を共有し、終わりに「振り返り」を行うサイクルを徹底します。

(2) ICT等を活用した視覚的支援（見本動画の活用）

運動のコツがひと目でわかる「お手本動画」を作成・整備します。運動が苦手な児童生徒が「これならできる！」と達成感を得られる指導を支援します。

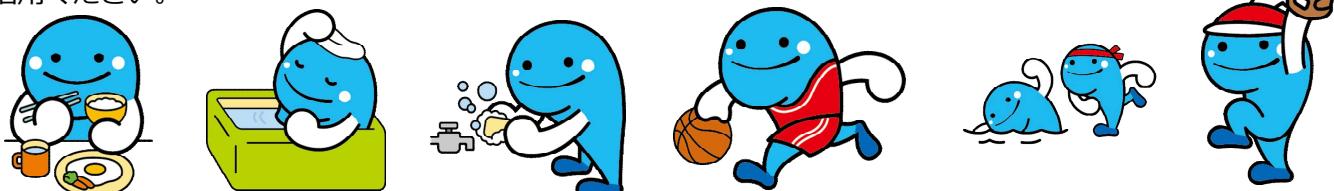
(3) 個に応じた丁寧な指導の充実

運動が苦手な児童生徒に対しても、個々の課題に合わせた「コツやポイント」を重点的に教える指導体制を強化します。

(4) 持続可能なスポーツ環境の整備

授業で育んだ運動意欲を放課後や地域でも活かせるよう、部活動の地域連携・地域移行を推進し、地域で継続してスポーツに親しむことができる環境を整えます。

なお、授業づくりについては、小学校体育授業づくり研修会、各校種の体育主任研修会及び要請訪問（各学校の依頼内容に基づく訪問支援）、夏期実技研修会等の事業を実施しています。また、「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」及び「陸上運動動画集」を高知家まなびばこにて公開していますのでご活用ください。



詳しくは保健体育課ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024122000043/>



保健体育課学校体育担当

TEL : 088-821-4900

「世界津波の日」2025 高校生サミット in 仙台

令和7年11月27・28日に「『世界津波の日』2025高校生サミットin仙台」が東北大学を会場に開催され、日本を含む10か国（ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）から計88名の高校生が参加しました。高知県は室戸高校から3名が参加し、県外及び世界各国の高校生と防災について共に学びを深めました。



26日のサミット前日には、震災遺構荒浜小学校を見学し、震災当時校長を務めた川村元校長先生に当時の気持ちや対応についてインタビューをしました。

27日は、4つのグループに分かれて協議が行われました。「より良い復興を考える」、「多様なステークホルダーの参画」、「伝承と災害文化を伝える」をテーマに、全て英語で活発に意見交換をしていました。室戸高校は「Hands-On Disaster Prevention Activities ~Disaster awareness gained through experience~」をテーマに発表を行いました。各校の取組発表後、グループに分かれ、英語でコミュニケーションをとりながら、



アクションプランをまとめました。その後、開会式が大ホールで行われ、震災の記憶と題して、東日本大震災の記録映像を視聴し、参加国紹介、来賓等の挨拶、語り部活動をしている石巻市立桜坂高等学校吉田三佳さんの発表などが行われました。終了後、専用バスでレセプション会場に移動、レセプションでは夕食をとりながら他国や他県の高校生と交流を深めました。

28日は、各分科会代表者から、検討したアクションプランを発表しました。「災害の怖さやリスクを正しく認識する」、「地域と連携してコミュニケーションをとる」、「直接被災体験がなくても防災について語り伝承していく」ことなどが大切であることが発表されました。閉会式では宮城県内の高校生記者のリポートと大会宣言「仙台絆宣言」が行われ閉幕となりました。

高知県から参加した高校生たちは、防災を通じて他国や他県の高校生と親交を深め、その熱意を感じたようです。「学校に帰ってからも防災活動を推進する意識が生まれた」という意見もあり、とても良い経験になったと思います。

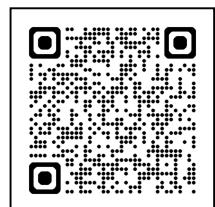


詳しくは学校安全対策課ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/312301/>



学校安全対策課学校安全担当
TEL : 088-821-4533

令和6年元日に発生した能登半島地震では、生活・交通インフラ、学校の校舎やグラウンド等が大きな被害を受けました。教職員も被災者となる中、被災地外から派遣された教職員による支援、特に被災後の学校再開に向けた対応を訓練した教職員で構成される、兵庫県の「EARTH」等の学校支援チームによる支援が、早期の学校再開の大きな支えとなりました。こうした教訓から文部科学省では、今後の大規模災害に備え、全国的な「被災地学び支援派遣等枠組み」(D-EST) の構築に向け、各都道府県の学校支援チーム設置を支援する等の取組を進めています。



『文部科学省/学校支援チーム』
ホームページ

近い将来発生すると言われている南海トラフ地震では、昨年10月に公表された新たな震度分布予測で、最大33市町村において震度7の揺れが発生する可能性を指摘されています。県内の各地域でも大きな被害が生じる可能性がある中、被災後の学校再開に向けて訓練を積んだ教職員を養成しておくことは、他県への支援だけでなく県内の学校が被災した際にも重要なことから、県教育委員会では今年度新たに「高知県災害時学校支援チーム員養成講座」を開講しました。1月6日(火)に実施した初級講座には学校、教育委員会等から51名の参加があり、被災後の学校再開について理解を深めました。

令和7年度「高知県災害時学校支援チーム員養成講座」

- ・県外の災害時学校支援チーム等を講師に招聘し、児童生徒への心のケア等学校再開に向け必要となる実践力向上に向けた講座を実施
- ・初級、中級、上級の3回の講座を修了した教職員を災害時学校支援チーム員に任命

初級講座（1月6日実施）

講師①：高津 智子 教材企画専門員（岡山県教育庁 災害時学校支援チームおかやま）



高津様には平成30年7月豪雨でのご自身の体験も交え、被災後に学校が必要となる対応と、能登半島地震の際にチームおかやまが行った支援についてお話しいただきました。



講師②：吉岡 邦展 事業推進課長（日本赤十字社 高知県支部）



吉岡様には日本赤十字社がこれまで被災地で行ってきた活動から、被災時の災害医療の考え方や、医療支援の体制など、被災地支援の実際をお話しいただきました。



中級講座
(R.8.8月実施予定)

上級講座
(R.9.1月実施予定)

全
講
座
受
講

災害時学校
支援チーム員
1期生に任命



次期養成講座は、令和9年度に受講者を募集し、開講する予定です。いざという時の備えとして、今回受講していないみなさんも、ぜひ受講を検討してください。



詳しくは学校安全対策課ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/312301/>



学校安全対策課学校安全担当
TEL : 088-821-4533

「架け橋プログラム」の実践と次年度に向けた引き継ぎ等に向けて

それぞれの校区で一日入学が行われている時期かと思います。入学を控えた5歳児は、それが入学への期待に、わくわく・どきどきしていることでしょう。一人一人が安心して小学校生活を始められるよう、そして先生方も安心して新入生を迎えるように、年度末・新年度の取組の参考にしてください。

1. 次年度に向けた準備～架け橋プログラムの充実のために～

(1) 引き継ぎ会の工夫

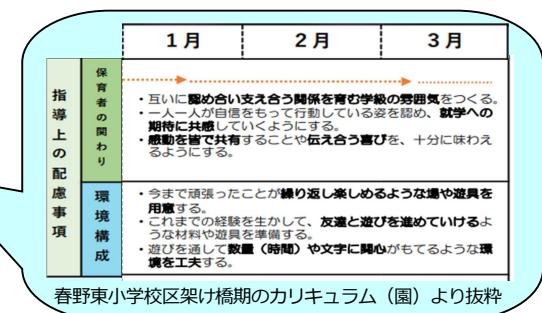
校区で実施されている5歳児についての「引き継ぎ会」等、既存の機会を工夫し、充実を図ってみましょう。例えば…

① 5歳児の保育を参観後、引き継ぎ会を行う

- ⇒ ◎一人一人の子どもの具体的な姿をもとに話し合いができる
- ◎5歳児の終わりの時期の生活の仕方が共有できる（給食、トイレ、係活動 等）
- ◎5歳児の保育室の環境を見ることができる

② 効果のあった／効果の見られなかった援助について共有する

- ⇒ ◎校区の架け橋期のカリキュラムを既に作成している場合は、『保育者の関わり』『環境構成』の項目を例に共有すると、来年度のスムーズな引き継ぎにつながる



(2) 次年度の架け橋プログラム年間計画の作成

下に紹介しているような取組の中から、校区で重点的に行うものを決めて、ぜひ取り組んでください。

学校区で架け橋プログラムの取組を充実した内容にするために、小学校側からも園に積極的に声掛けする、また、自治体が中心となって園と小学校で集まる機会をもち、年間の計画をその場で立て、各校区で実践を進めるとよいですね。

「今年は、下記の取組を参考に、4月当初の環境を園の先生と一緒に考えよう！」

架け橋プログラム 年間計画					
令和7年度 架け橋プログラム 年間計画(例)					
実施園・校		月	実施日	項目	内容等
		4		○担当者会 ○連絡会	○年間スケジュールの確認 ・小と園の担当者
		5		○1年生公開授業（連絡会と並ねる）	・5歳児担任、管理職等 ・自治体 ・架け橋コーディネーター
		6		本年度、重点を置いて取り組むべきところを担当者会で決め、夏休み等を活用して実践する。	従来、行っているものを計画の中に入れ、取り組み方を見直す。
		7		○第1回 5歳児公開保育	・保育者、小学校教員等 ・自治体 ・幼保支援AD
		8		○（ ）園	アドバイザーがいることで、幼児期に大切にしたいことや環境構成等についても詳しく伝えられます。
				8月に実施することで1年生担任だけでなく、多くの小学校教員が参加しやすくなります。また、協議まで参加することで幼児期の遊びの中での遊びについて共通理解を深めることにつながります。	

「来年度は園の先生方と保育を見合って話し合いをすることにしたけど、どんな話し合いをすればいいのかな」などのお悩みがありましたら、幼保支援課のアドバイザーや架け橋コーディネーターも活用していただけます。

アドバイザー等の活用の際には、

- ①令和8年度の校区の年間計画を作成し、市町村の保幼小連携担当者に報告
- ②市町村担当者から県にアドバイザーやコーディネーターの派遣希望日等を申し込んでいただくと、より計画的に支援することができます。

年間計画の立て方については、「高知県保幼小の架け橋プログラム実践ガイドブック」P10に詳しく例をあげて説明しています。また、P23には入学式後のスタートカリキュラムの実際を載せています。園や小学校にも配付していますが、幼保支援課のホームページにも掲載しておりますのでご活用ください。

2. 新年度の取組

～安心して自己発揮できる環境づくり～

(1) 園の先生と環境づくり

入学当初は、子どもが安心して学べる学習環境を整えることが重要です。

右図は、1年生の教室環境を園の先生と小学校の先生が一緒につくりついた取組です。

園に似た環境の中で、子どもたちが安心して自己発揮ができ、「学校が楽しい」という姿につながっていました。

【互いの教育の理解】

4月当初の環境の工夫

入学当初の学校の教室の環境について一緒に考えましょう
～「安心」「安全」「自己発揮」を目指して～

空間が広く、全クラスが集いやすい廊下に、製作遊びの環境をつくることに！



(2)『スタートカリキュラム』の実施

スタートカリキュラムの実施にあたっては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導を展開することで、発達に合わせた段階的な学びを工夫していきましょう。

6. 入学式後の3日間(スタートカリキュラム)

入学式後
1日目

スタートカリキュラム 4月
【ねらい】「学校って楽しいな」学校や友達に関心をもち、学校生活に意欲的に取り組もうとする。

P23

日 4月10日(月)	
行事	集団下校
会議	△のんびりタイム(自由遊び)
朝の会	■なかよしタイム
1	■【なかよし】学活 ・みんなとかよくなる国 ・荷物の片付け方を考える ・歌「ドキドキドン！年生」 ・ダンス「パブリカ」 ・音・トイレの使い方
2	★【わくわく】生活 ・走っているときに落ちる ・並び方や通り方の確認 ・走ってみよう ・ゲーム「もうじゅうが」 ・学り
3	★【わくわく】学活 ・荷物の片付け方 ・今日の振り返り ・下校する仲間を知る ・学



架け橋プログラムの取組について、幼保支援課がR6.3に作成したDVD『子供をまんなかにした話し合いを通して学びをつなぐ「架け橋プログラムの取組」～架け橋期の教育の充実に向けて～』が、幼保支援課YouTubeで視聴可能です。



<https://youtu.be/tKBXz4GjUEA>

全編約1時間のうち、36'40~41'23(約5分)で『入学時の環境や生活について』の実践例が紹介されています。

年度始めに1年生担任で、また全職員で視聴すると、具体的なイメージをもったり、学年間で共有したりするツールとしてご活用いただけます。



詳しくは幼保支援課ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311601/>



幼保支援課 幼児教育担当
TEL: 088-821-4881



とさまなチャンネルでも
県内の幼稚園のいろんな取組を
紹介しゆうきね。
ぜひ見てよ～♪

たちばな幼稚園の動画はこちらから



社会教育関係団体がつくる伝統文化の継承～お遍路接待～



10月17日に岩本寺(四万十町)で、11月30日に津照寺(室戸市)で高知県連合婦人会が主催する「お遍路さんへの接待事業」が開催されました。

この事業は、歴史の学習や地域文化にふれる体験活動を通じて、ふるさとへの理解を深め、郷土愛を育むことを目的に、地域の子どもたちと婦人会が毎年実施しているもので、「高知県ふるさと教育推進事業」が活用されています。これまで、県内の四国遍路札所等においてお遍路さんを接待することにより、世代間交流を通して感謝する心やおもてなしの心が育まれてきました。

子どもたちは、お遍路さんに渡すための“お接待袋”や袋に入れるお守り等を事前に作成し、お接待当日は緊張しながらも「気をつけて行ってきてください」など、参拝者に心を込めて声掛けをしていました。

参拝者の方々からも、「力がみなぎる」「高知のお接待があたたかく、うれしい経験になった」など喜びの声があり、受け取ったお接待袋に入っていたメッセージを大事そうに読む姿も見られました。

また、ドイツから旅行で訪れた参拝者には、地元の観光スポットやおすすめのグルメなどを果敢に紹介し、伝統文化を通した終始笑顔の国際交流の場にもなっていました。

家族や親戚などの身近な大人ではない方々とコミュニケーションをとりながら、地域の伝統文化に加わる取組は、子どもたちが暮らす地域を深く知り、愛着をさらに育むことが期待されます。



生涯学習課ホームページはこちら

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310000/310401/>



生涯学習課 社会教育支援担当

TEL: 088-821-4911

学校×地域＝倍倍笑顔😊

学校や社会教育・行政等の関係者で構成する「令和7年度第1回高知県地域学校協働活動推進委員会」を11月6日(木)に開催し、『子どもの「確かな学力、健やかな体、豊かな心」の育成に向けたコミュニティ・スクールのあり方について』をテーマに協議が行われました。

協議の中で、委員から出た意見や取組事例を紹介します。

地域学校協働本部事業の理解とその効果について

- 正しく理解することが重要
教職員の皆さんに地域学校協働本部事業の内容を正しく理解していただくことが第一歩です。
- 地域の方々との協力
地域の方々と力を合わせることで、これまで教職員が行ってきた事務作業などの業務を地域の方にお願いできます。
- 教職員の負担軽減
その結果、教職員の負担が軽くなり、働き方改革に繋がります。
- 子どもと向き合う時間の拡大
業務の削減によって教職員は子どもと向き合う時間を増やすようになり、学校と地域が一体となって子どもたちを育てる環境が整います。



前回の夢のかけ橋 103 号の 2 ページ目にある「Topics 2 中堅教員（教諭、養護教諭）と県教育長との対話」においても、地域との連携について話題があがっていました。



学校と教師の業務の 3 分類

- 教師が教師でなければできない業務に専念できるよう、服務監督教育委員会は、これらを踏まえて、それぞれの地域における業務の見直しについて、優先的に対応するものから「業務量管理・健康確保措置実施計画」に反映。
- 学校は、学校運営協議会等での議論を経て、優先順位を定めながら、各校の実情に応じた運用を行う。これらの代表例のほか、地域・学校ごとの議論を踏まえて、業務を不斷に見直すことが必要。

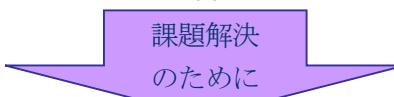


【令和7年10月15日 中教審 教師を取り巻く環境整備特別部会（第3回）より】

いの町教育委員会の取組事例

＜現状と課題＞

- ・教育課題の改善には学校だけの力では限界があり、保護者や地域の協力が不可欠。
- ・全国学力調査で示された家庭学習時間の課題を踏まえ、地域と連携した取組を推進。



＜令和7年度の主な取組＞

①全 11 校で「基本的生活習慣」について熟議を実施

学校一斉にテーマ共有し、PTA や保護者、地域と課題を共有。

②コミュニティ・スクールと地域学校協働本部の一體的推進

町全体で課題解決に取り組む体制を整備。

＜教育委員会の役割・目標＞

- ・町の教育方針を明確に伝え、組織として課題に取り組む基盤を作ること。
- ・地域と学校が一体となり、教育課題の改善を目指すことで、子どもたちの未来をしっかりと支える。



【いの町令和の教育ビジョン（令和7年度）より】



学校運営協議会とは・・・

学校の運営について地域や保護者、教職員が話し合う会議。学校の方針や運営について意見を出し合い、より良い学校づくりを目指します。

地域学校協働本部とは・・・

学校と地域の連携を進めるための組織。地域の人や団体が学校の活動を支援したり、子どもたちの成長を地域で見守ったりする役割を担います。

地域学校協働活動とは・・・

地域の人たちが学校と協力して行う様々な活動のこと。例えば、見守り活動や学習支援、イベントの運営など、教職員を助ける役割があります。



詳しくは生涯学習課ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310000/310401/>



生涯学習課 地域学校協働支援担当

TEL : 088-821-4897

見に来てほしいチャレンジがある！～県立中村特別支援学校の取組～



中村特別支援学校の取組を紹介！
みんなに見に来てほしい
「チャレンジ」があるがやって～
ぜひ見てみてよ♪



⇒ 中村特別支援学校の
動画はこちから



働き方を力エル！～学校における働き方改革推進モデル校事業～（前編）



今年度から県教委が始めた
「働き方改革推進モデル校事業」を紹介！
働き方改革のために先生らあが
いっぱい話し合いしゆうみたい。
どんな意見が出たがやろう？

働き方改革推進モデル校事業の
動画はこちから



課長が行く！大方高校～こうち留学生はどんな場所でくらしているの？～



今年度、大方高校の居住施設が
新しくなったがやって！
自然いっぱいの黒潮町で充実した
高校生活を送ってみん？



⇒ 課長が行く！（大方高校）
の動画はこちから



ショート動画も続々公開中！



サクッと見られるショート動画も
どんどん公開しゆうきね！
いっぱい見てよ～



詳しくはYouTubeチャンネル『とさまなチャンネル』をご覧ください。
<https://www.youtube.com/@user-dx7bm9tn8h>



教育政策課 教育企画担当
TEL : 088-821-4731

<発行者>高知県教育委員会事務局教育政策課

TEL : 088-821-4731 FAX : 088-821-4558 E-mail : 310101@ken.pref.kochi.lg.jp

高知県教育委員会WEBサイト：<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310000/>

※本広報紙への感想やご要望がございましたら、発行者までお寄せください。

